

令和4年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原北小学校	校長	石原 政信	生徒指導主事	長岡 康治
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『クラス会議 ～自分たちで決めたからこそ、自分たちでやりたい～』				
-------	----------------------------------	--	--	--	--

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
関わる力	1	表現する力	2	チャレンジする力	3

取組のねらい

一人ひとりの考えや感情に寄り添える生徒指導を基本に展開する。その上で、クラス会議という手法を用いて、「共同体感覚」を児童に身に付けさせ、自治的風土を確立していく。そのために、主に行ったのは、次の3点である。

- (1) クラス会議を通して、自分たちの課題を自ら見出して表明し、そのことについて話し合い、自分たちで解決する場を設定する。
- (2) 実行とふり返りの往還を促し、自分たちのクラスを自分たちで改善していくサイクルを回す。
- (3) クラス会議を通して、創造的なイベント等を創出し、関係性を深められるようにする。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『キーワード 共同体感覚』
----------	--------------------------

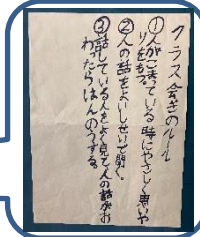
上越教育大学大学院赤坂真二教授が提唱されている『クラス会議』をベースに進めている。
【基本的な進め方と本校2年1組の実践】

- 1 輪になる（時間前）
- 2 あいさつ
- 3 話し合いのルール
- 4 いい気分・感謝・ほめ言葉
(アイスブレイキング)
- 5 前回の解決策のふり返り
- 6 議題の提案
- 7 話し合い
 - ・ 解決策を集める
 - ・ 解決策をしぼる
- 8 決まったことの発表
- 9 ふり返り
- 10 先生の話
- 11 あいさつ

「宿題を早く終わらせるためには、どうしたらいいか。」

- ・ 自習をする。
- ・ むずかしい宿題を先にする。
- ・ ヒントをもらう。
- ・ むずかしい宿題を後にする。
- ・ 手を止めない。

・ 自習をする。自習をしたら、算数のかけ算も早く言えるようになるし、漢字の宿題も早く終わらせることができるようになるから。



・ どの授業でも、共同体感覚を培うために、「関わり発言」や「緩やかなチーム意識（反応等）」を大切にしている。【詳細は、本校のHPを参照】

・ 話し合いのルールは、最初のクラス会議で子どもと一緒に作成し、黒板に掲示する。

・ 前回の解決策のふり返りの中で、自分たちの実行したことがどうだったのかを共有する。

・ 議題は、事前に議題箱を設置し、募集しておく。また、この場で司会者は、クラスでのルール作りか個人的なアドバイスかを提案者に確認する。

・ 解決策の実行については、次回のクラス会議でふり返り、結果を共有する。

【参考文献：赤坂真二『赤坂版「クラス会議」完全マニュアル』】

取組の成果と課題

- クラス会議の成果として、
- ・ 子どもたち同士が話し合い、実行・ふり返りを行い、次のアクションに生かすことで、自分たちで決めたことは自分たちでやろうとする姿につながってきている。
 - ・ 物事の多様性に気づき、柔軟に考えていくことで、自分たちの考え（解決策）のメリットとデメリットの両面を見ようとしてきている。
 - ・ 居場所のある居心地のよい環境を自分たちで創ることで、自分たちのクラスの強みと弱みを見定め、それらを基によりよい自分たちを目指そうとする姿が見えてきている。
- 課題としては、
- ・ 共同体感覚をさらに高めるためには、さらに相手の話をより分かろうとして「きくこと」が大切である。そのための方策として、「質問をするつもりできくこと」を大切に、対話を自分たちで創り出していくことを新たに取り組む。